

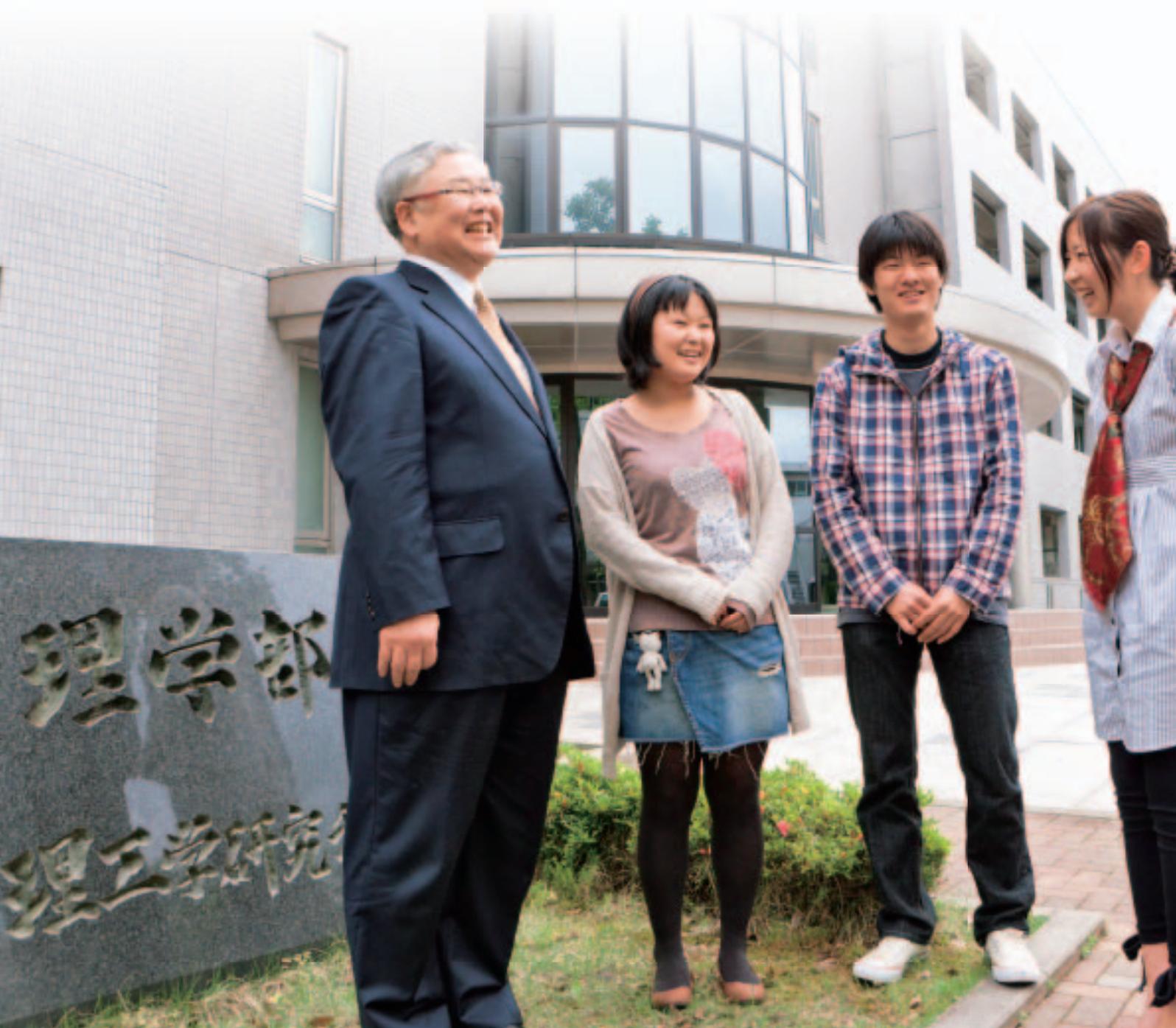


富山大学理学部後援会報



りっか

第7号 2012.3



後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっています。全国でもまれな、6学科から構成されている理学部であることを象徴しています。

ごあいさつ

理学部後援会会長 赤間 芳則

早春の候 後援会会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、後援会報第7号を発刊することができましたのも、皆様の後援会活動へのご理解・ご支援の賜物と感謝申し上げます。

1年前は長期不況や政治、就職難に不安感を募らせていました。しかし東日本大震災はそれまでの価値観を覆してしまいました。支援や原発対応の遅れは構造問題を浮き彫りにするだけでなんら解決に結びついていません。1年を経過した今、さらなる諸問題が発生しているのは透明性を軽んじたからに他ならないでしょう。

昨年11月に発表された【富山大学機能強化プラン】においてステップの先頭に「可視化」を掲げたのが富山大学からの意思表示と受けとめております。強化プランによる連携して行動することが理学部の使命だとすれば、いまこそ大学関係者各位と保護者の方々との緊密な連携が必要であり、後援会として教育環境の充実などの支援継続に努めて参りたいと考えております。

会員の皆様におかれましても、今後とも理学部後援会のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



保護者の皆さま

理学部長 清水 正明

平素より理学部の教育に対し、格別のご理解とご協力をいただき、心からお礼申し上げます。本年度は、学部から220名、大学院(修士課程)から93名が社会に巣立ちます。長引く経済不況による就職難のなか厳しい就職活動を乗り越えたかれらを心より賞賛したいと思います。理学部としても支援の取り組みをこれまで以上に強めてまいります。

今年度の理学部の教育の特色として、学部共通教育の改革、能力別クラス編成、同窓会と連携したキャリア教育を指摘させていただきます。

学部共通教育の改革として、理学部の全学生を対象にした「地球生命環境理学」(専門基礎科目、必修)および「科学コミュニケーション」(専攻科目、選択)を開講しました。「地球生命環境理学」は、ヒトを含む生物と地球環境の相互作用、環境問題、地球と生物の共生を中心に、環境マインドを、「科学コミュニケーション」は、科学を正しく、わかりやすく社会に伝えるための能力を育成します。能力別クラス編成は、物理学演習A、B(専攻科目、選択)、位相数学序説(専攻科目、選択)、線形代数学II(専攻科目、必修)で実施されています。同窓会と連携したキャリア教育として、平成24年度から「理系キャリアデザイン」(専門基礎科目)を開講します。

理学部では、以前からサイエンス・フェスティバルを開催しておりますが、今年度は大学開放事業として、理工ジョイントフェスタを開催しました。「? (はてな)からはじまるサイエンス」をメインテーマに、科学を担う青少年に理学の楽しさやすばらしさを伝え、一般の方々にはサイエンスをわかりやすく、楽しく伝えることを通し、学生にとっては、科学のすばらしさを再認識する活きた教育現場となりました。KNB(北日本放送株式会社)や新聞各紙で取り上げられましたので、皆様もご存知のことと思います。

今後とも保護者の皆様との連携を密にしながら、よりよい理学部の教育をめざしたいと思います。お力添えのほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

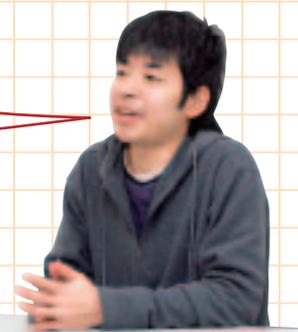
平成24年度 キャンパススケジュール

CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生 オリエンテーション ○ 授業開始(前期)	◆ 新入生保護者懇談会
5		
6	○ 第3年次編入学試験	◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7		
8	○ 期末試験 ○ 夏季休業開始 ○ 大学院入学試験	◆ オープンキャンパス ◆ マーレイ州立大学(米) への語学研修
9	○ 集中講義	◆ サイエンス フェスティバル
10	○ 授業開始(後期)	◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学 学生交歓芸術祭 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 推薦入学等特別選抜試験	
12	○ 冬季休業開始	
1	○ 授業再開 ○ 大学入試センター試験	
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会 ○ 入学試験(前期)	
3	○ 入学試験(後期) ○ 学位記授与式	

抽 象代数学の中の、群・環・体について研究しています。

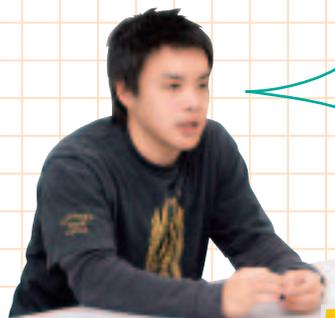
よく洋書で勉強したりもします。英語を読むのは大変ですが、解法を理解できる瞬間がきた時には、「やった！」という達成感を感じることができます。子どもの頃から算数が好きで、数学科を選びました。数学は僕の一生のパートナーだと思っています。



やまもと まさひろ
山本 将大さん
数学科4年生

私 は、いろいろな天然物に
応用できる部分骨格の合成研究を行っています。
実験は失敗が続いてうまくいかないことも多いですが、先輩の助言で良い結果が出ると、本当にうれしいです。
将来は、研究室で学んだことを生かして、品質管理など、分析ができるような仕事に就きたいです。

僕 は、雪の結晶成長のメカニズムについて研究しています。
雪の結晶には2つとして同じものがないということに、ロマンを感じます。実験は大変ですが、きれいな結晶ができた時は、とてもうれしいです。
この春から、理科の教師として教壇に立つことになりました。理科の奥深さを生徒たちに伝えていきたいと思っています。



おおいわ けいすけ
大岩 敬典さん
地球科学科4年生



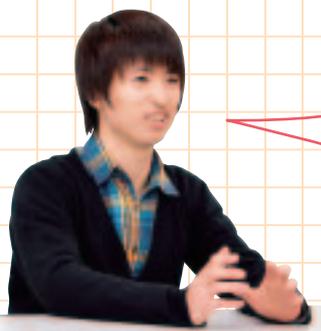
よしはら しゅうこ
吉原 祥子さん
化学科4年生

理学部

フィールド・オブ・ドリームス

研究室やフィールドで、日々独創的な基礎研究や応用研究、それに環境問題に関する研究に励む理学部の学生たち。彼らに、研究への思いや将来の夢について語ってもらいました。

昔 から自然が好きで、フィールドワークをしたくて、この学科を選びました。
実習で立山に登り、植物や蜂の研究をしたことが、貴重な体験として特に印象に残っています。
環境指標として、立山杉内に含まれている金属濃度を研究しています。この研究を生かして、環境に携わる仕事に就きたいと考えています。



たけしま れんたろう
竹島 廉太郎さん
物理学科4年生

鉛 に代わる物質を探すが、これからの環境問題に役立つと考え、ICチップに使われるリラクサという強誘電体を研究しています。
自然の物質を研究しているので、解析が思うようにならない時は大変ですが、教授と相談しながら工夫を凝らすのは楽しいです。
大学院でも研究を続け、将来は材料系の研究職に就きたいと思っています。

海 の岩礁域に生息して日中は陸で生活する、ヨダレカケという魚の体液調節や呼吸の仕組みを研究しています。この魚のエラや腎臓の動きを研究することで、魚類による多様な環境への適応機構が判ってきました。
昔から生物が好きだったので、初めて実験をした時はうれしかったです。
実験で培った探求心や忍耐力を生かして、将来は研究職に就きたいと思っています。



たけだ もえか
竹田 萌可さん
生物圏環境科学科4年生



うえだ ゆきえ
上田 雪絵さん
生物学科4年生

さまざまな交流を通して 学び楽しむ学生生活

学生生活の中で忘れることができないのが、先生方や同級生、先輩、後輩たちとの交流の思い出です。理学部に学ぶ皆さんも、授業や学科ごとのイベントなどを通して、日々貴重な経験を積んでいます。数学科・化学科・物理学科の皆さんに、特に印象に残る交流の思い出について語っていただきました。



—数学科では、特色のある授業が行われているということですが、どのような授業なのですか？

山本 高校までの数学は、説明を聞きながら、黒板に書かれたことを書き写すだけという授業が多かったので、大学に入って、ノートに書き写す時間を別にとってもらえるということに驚きました。

先生のお話を聞きながら、頭の中でじっくり考えることができるので、より理解が深まる気がします。先生もユーモアがあって、たまに雑談してくださったりして、とても楽しい授業です。

赤間 僕は情報系の分野に進みたかったのですが、実際にパソコンを使う情報科学や、情報数理の授業が面白かったです。特に、情報処理技術者試験に必要なアルゴリズムについて教えてもらったおかげで、試験に合格できた時は、うれしかったです。



数学科3年生
やまもと さち
山本 紗千さん

—数理解析と情報数理の分野が、あるとのことですが。

赤間 僕は、授業で情報系の面白さに目覚めたので、将来はそちらの方面の仕事に就きたいと思っています。

山本 私は代数や解析が好

きなもので、どちらかという
と、数理解析分野を中心に
取りたいと思っています。
計算よりも証明することが
メインの授業が多く、大学
に入ってから数学の奥深さ
を実感しています。

将来は、数学の教師にな
って、子どもたちに数学
の魅力を伝えられたら……と
思っています。



数学科4年生
あかま ゆうき
赤間 優樹さん

—サイエンスフェスティバルの代表をされたとのこと
ですが？

山本 はい、子どもたちに数学への興味を持って欲しい
という思いから、数学科の代表を引き受けました。

折り紙を使って多面体を作る実験と、マッチ棒のパズ
ルクイズを企画したのですが、お子さんから大人の方ま
でたくさん来ていただいて、大好評でした。

準備は大変でしたが、数学科は学年を超えた交流が少
ないので、ほかの学年の方たちと交流を持つことができ
て、とても楽しかったです。



大学院理工学教育部 化学専攻1年
だんの まさと
團野 雅斗さん

——ソフトボール大会「ケミカルリーグ」を、開催されたとのことですが？

團野 2年前に中断されていたのですが、「もう一度やって欲しい」という周りの声や、僕自身もやりたかったので、思い切って復活させました。

以前は4年生以上の大会だったので、経験者もいなくて、ほぼゼロからのスタートでした。最初にやったことは、道具を見つけて使える物を選別することでした。その後、みんなに声をかけて参加者を集めました。

——他学年の方に呼びかけるのは大変だったのでは？

團野 3年生はティーチングアシスタントの時に声をかけて、2年生には新入生の歓迎会の時に声をかけました。

春と秋の2回開催したのですが、同じチーム構成にしていたので、来年はチームを変えて開催したいと思います。

——大会のお写真がとても楽しそうですね。

酒井 はい、これは春の大会の写真です。男性が女装、女性が高校生の仮装をした仮装チームもあって、盛り上

がりました。

團野 男子顔負けの選手もいましたね。酒井さんが参加した錯体チームは春秋連続優勝だったんですよ。

酒井 私はあまり活躍できなかったんですが、経験者が活躍してくれて……（笑）。

大会の後に開かれた懇親会も楽しかったです。

團野 秋の大会は、僕の友達が世話役をやってくれました。来年以降の世話役は、次の代に伝えるためにも、後輩に任せて、僕はサポートに徹したいと思っています。

——参加されて一番良かったことは？

團野 やはり、2年生、3年生も参加してくれて、学年の壁を超えた交流ができたことです。

酒井 大会に向けて、研究室のみんなと練習したのが楽しかったです。それに、ほかの研究室の人たちと仲良くなれたのも、良かったです。

團野 それまでは、研究室が違うとほとんど話すことがなかったけれど、今は本当に仲良くなりましたね。



化学科4年生
さかい あやな
酒井 彩那さん



物理学科4年生
よしはら たかのすけ
吉原 隆之昌さん

——物理教室セミナーについて教えてください。

東川 外部の先生方のお話と、院生の中間報告があるセミナーで、誰でも参加することができます。

吉原 1988年から、年に10回開催されていて、もうすぐ200回になります。

最先端のお話なので難しいですが、日本有数の先生方が来られるので、興味深い内容ばかりです。特に、カミオカンデのお話が印象に残っています。

東川 私は、宇宙線研の先生がされた、重力波のお話が面白かったです。

——「縦コン」というイベントがあるそうですね？

吉原 はい、「学年を超えた縦の交流を持ちましょう」という趣旨で開催される懇親会です。

新入生歓迎会と学期末の会、卒業生の追い出し会があるので、年に4回あります。開催場所はカフェAZAMIや学食で、毎回50人くらい参加者がいます。

——1年生の頃は緊張されたのでは？

吉原 最初は緊張しましたが、先生方が気を使って話しか

けてくださって、すぐになじむことができました。縦コンでは、人間関係の作り方や距離感など、学ぶことが多いです。

東川 物理学科は女性が少ないので、女性同士の交流ができて良かったです。特に、下級生が研究室について質問してくれた時は、うれしかったですね。

吉原 どちらかという、院生の雰囲気イコール研究室の雰囲気という面が大きいので、研究室選びの参考にもなると思います。

東川 先生も参加されますし、先輩から研究室の話も聞けるので、研究室選びの時には参考になりました。

——縦コンで、特に印象に残っていることは？

吉原 僕は幹事だったので、盛り上げようと女装してみました。先輩方もほくのお化粧を、ノリノリでしてくれましたよ。

東川 ちょうど私の学年の追い出しコンパだったので、女装はとても印象に残っています（笑）。

それに、音楽に合わせて思い出の写真を流す演出もあって、とても感動しました。

吉原 はい、ぜひ思い出に残してほしいと、卒業生の方に写真集をDVDで配ったりして、頑張りました。



大学院理工学教育部 物理学専攻1年
とうかわ ゆりな
東川 優理奈さん

学生による学生のための 研究者レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

理学部の学生はどんな研究をしているのだろう、と思われたことはありませんか？ここでは、学生が先輩たちにインタビューして、その研究内容を分かりやすく紹介した記事を掲載しました。今後も、少しずつ紹介していきます。

インタビュー × 齋藤 真貴子

小酒 由衣
神野 良誠
後藤 圭太
下田 哲大



File #005 ▶

齋藤 真貴子(さいとう まきこ)
水素同位体科学研究センター修士課程2年
誕生日：1988年1月19日
出身：青森県弘前市

核融合ってなんじゃそりゃ!!??

■ 齋藤さんの一日

8:00	9:00	12:00	13:00	19:00	0:00
起床	研究室	昼食	研究室	テニス	帰宅 就寝

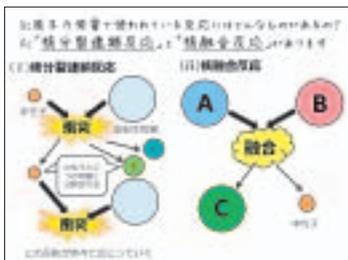
研究室にいる日は、ほぼ一日中実験をしている齋藤さん。実験後や休日にはデータ処理を行ったり趣味（テニス部、写真撮影）を楽しんだりしている。実験をしている時間は日によって変わるものの、ほとんどこのような過ごし方なのだとか。

■ 次世代のエネルギー源

齋藤さんは現在、次世代のエネルギー源として期待される核融合に関する基礎研究をしています。

ところで、核融合って何でしょうか？

核融合とは、右図中の左のように原子核同士を勢いよくぶつけると、くっついて別の新しい原子核が作られます。これを核融合といいます。原料の原子核と新しくできた原子核の質量を比べると、反応後の質量が減少しています。この減少した質量の分がエネルギーとして出てきます。



従来、核の反応というと上図中の右の核分裂反応が主でしたが、近年研究が進んでいる核融合反応は、核分裂反応と比べ反応をコントロールしやすい、また、放射性廃棄物が少ない、などの利点があり注目されています。

そこで、核融合発電炉の構造材料に関する研究をしている齋藤さんに様々なお話を伺いました。

■ 研究内容

インタビュー(以下 イ)：齋藤さんの研究内容は何ですか？

齋藤 (以下 齋)：核融合発電に使う炉の材料に関する基礎研究です。実験では、核融合を起こす燃料である“トリチウム”という物質が、様々な金属に対してどのくらい吸収されるか？また、金属からどのようにして放出されるか？ということ調べています。この成果は、核融合炉の材料にどんな金属を使ったらよいかという評価に応用できます。

イ：その研究をしようと思ったキッカケは何ですか？

齋：配属される研究室を決める際に、それぞれの研究室の説明会がありました。その説明の際に「トリチウムを使って核融合…」ということを知り、単純に「なんじゃそりゃ!?!」と思い興味がわいたからです。

イ：トリチウムって何ですか？

齋：簡単に言って水素の仲間です。水素は軽水素・重水素・三重水素と重さの違いから3つの同位体に分けることができます。普段水素と呼んでいるものは軽水素にあたり、トリチウムは三重水素にあたります。



イ：最近はどういった実験を行いましたか？

齋：私たちは放射性物質を扱っているため、管理区域という特別な場所で実験を行っています。今は、トリチウムにさらした試料からのトリチウム放出実験を6カ月程続けています。毎日サンプリングを行い、放出速度の変化を観察しています。また、他大学との共同研究など、いろんな実験を並行して行うこともあります。

イ：研究を実際にやってみてどうですか？

齋：4年生で研究室に配属され、実験をひたすらにしていた頃は純粋に「楽しい」と感じていました。しかし、研究はそれだけでは成り立たず、結果を解析して文章にまとめたり、学会発表を行ったり、人の研究発表を聴いたりして全てをこなして研究となることが分かりました。研究活動を通して理解すること、伝えることの難しさを実感しました。



■ 後輩にひとこと

興味はありましたが、明確な目標があって研究室を選んだわけではありません。それでも、研究活動や研究室での交流を重ねていくうちに目標が見つかっていきます。3年前の自分と比べてだいぶ経験値も増えました。良い結果ばかりではなく、むしろ失敗の方が多く悩むこともありました。それも良い思い出と感じています。同期や先輩、先生方、その他にも様々な人たちと関わっていきます。その中で積極的にコミュニケーションをとり、いろんな経験をして、研究活動を実りあるものにして下さい。

これらの研究紹介記事は、「科学コミュニケーションⅡ」の講義(主講師：元村有希子(毎日新聞社))で作成したものです。

インタビュー × 東川 優理奈

大平 歩美、倉内みなみ
近藤紗由美、辻永 結衣

File #006 ▶

東川 優理奈(とうかわ ゆりな)
富山大学大学院理工学教育物理学専攻修士課程1年
誕生日：1988年12月5日 年齢：23歳
出身：富山県滑川市
趣味(マイブーム)：漫画(少年漫画系)
好きな食べ物：みかん、オムライス



レーザーで見えないものを見る!

■ 東川さんの一日

○実験のある日(週1、2回)

7:00	9:00	15:00	21:00	1:00
起床	実験準備 / 講義を受ける	実験	帰宅	就寝

実験に使うヘリウムは冷やすのに時間がかかるので、準備時間が長い。その間講義に出たり、昼食をとったりする。

○実験のない日

7:00	9:00	17:00	21:00	1:00
起床	実験データ整理	お茶会	帰宅	就寝

東川さんの研究室では、ほぼ毎日研究生と松島・森脇教授でお菓子を食べたり、コーヒーやお茶を飲んだりしながら、研究内容に限らずコミュニケーションをとる場として「お茶会」が開かれている。

☆この研究室のおすすめ☆
毎日のお茶会と、年に一回の焼きそばパーティ(中庭で)!

■ 大学院への進学

東川さんは「虹がキレイ!」ということから光に興味を持ち、「レーザー物理学研究室」を希望した。ここは、レーザー光を使って目に見えないものや現象についての研究を行っている研究室である。

大学4年生の4月に研究室に入り、レーザー光源の中から研究に必要な波長を得るための装置の製作を行っていた。その装置は、電流や温度によって、得られる波長を変化させることができる電子回路である。研究に必要な波長が安定して得られるまで改良を重ねていた。

12月ころからは固体ヘリウムについての研究を本格的に始めた。固体ヘリウムは、作製技術が確立していないため、全国でも研究している大学がきわめて少なく、その性質は謎に包まれている。このように、例が少ない研究であるということに、自分の手で新たな研究結果が得られる楽しみを感じられると思い、この研究内容を選んだ。

最初は教員になるつもりだったので大学院への進学は考えていなかったが、より専門的な知識を習得して教員になりたいと思い、大学院へ進学した。

■ ヘリウムの不思議

一般的に物質は高温状態では気体、低温状態では固体といったように温度に伴って、その状態を変化させる。しかし、ヘリウムは温度だけでは状態が変化しない物質である。日常

生活で私たちが目にするヘリウムは、空気よりも密度が小さい性質を利用して風船に入れるガスに用いられたり、お祭りなどで売られている吸うと声が変わる「ヘリウムガス」など、気体の状態がほとんどである。また、温度を大きく下げる(約マイナス272度)と液体になり、原子炉の冷却材やロケットの噴射口を守る冷却材などに用いられる。しかし、液体ヘリウムの温度をそのまま下げ続けただけでは固体にはならない。ヘリウムを固体にするためには、25気圧(2.5 MPa)まで圧力をかける^(注1)という工夫を行わなければならないのである。

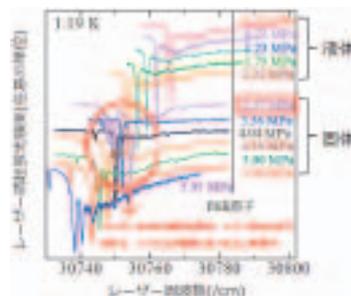
■ レーザー光を使って解明

東川さんが現在行っている研究テーマは、『液体・固体ヘリウム中での原子分光』である。この研究では、ヘリウム中に別の物質の原子を入れ、温度や圧力を変化させながらヘリウムの状態の中でも固体の状態に注目して性質を調べている。

私たちが知っている固体とは金属や机といった目で見てわかるものだが、ヘリウムの固体は直接観察することができない。そこで、ヘリウム中に他の原子を入れ、レーザー光を原子に当てて、原子のエネルギーを励起^(注2)させる。励起された原子は不安定になるため、光を出してもとの安定した状態に戻ろうとする。その光を詳しく分析することで、ヘリウムの状態を間接的に得ることができる。

原子は、種類によって、決まった波長の光を吸収したり放出したりする。この性質を利用し、原子に合う波長のレーザー光を当てた状態で温度と圧力を変化させることで、スペクトル^(注3)の形状の変化・ずれ(図参照)から、ヘリウムの状態を調べることができる。

この実験は今すぐ役に立つわけではないが、まだよく知られていない、液体・固体ヘリウムの性質を明らかにすることで、新しい発見につながる可能性を秘めているのである。



(注1) 1気圧は海拔0 mにおける大気圧。1013 hPaとも表す。

(注2) 励起とは、原子や分子が外からエネルギーを吸収し、もとのエネルギーの低い状態からより高い状態へ移動すること。

(注3) スペクトルとは、光を波長ごとに分けて示したものを。

■ 大学院での経験から・・・

大学院では学部4年間に比べ、実験の内容など自分で考え、決めることが多くなり、自分でやらないと何も進んでいかないということを変えて実感したという東川さん。「院に進学したときは、まわりの人が卒業してしまい、最初はすごく寂しかったけど、進学した友達とはさらに仲良くなれるし、研究室の先輩や4年生、他の研究室の人たち、先生など、いろいろな人と接することができ、大学院での生活がとても楽しくなりました。特に物理学科の先生は親しみやすく、お会いしたらたくさんお話しをしてくださいます。」と話された。

大学院で、人との繋がりという大きな経験をした東川さんから最後に、「大学生のうちいろいろな経験をしたほうが良いと思います。挑戦することや、多くの人と接することによって得た経験はこれからの将来に活かすことができると思うので、みなさんもぜひ自分のやりたいことをみつけてやってみてください。」という後輩に向けてのアドバイスをいただいた。

平成23年度 理学部後援会予算

収入の部

費目	金額	摘要
繰越金	3,603,011円	
会費	3,840,000円	平成23年度入学生96名(4月～) 平成24年度入学生96名(24/3月) ※合格発表後入会依頼のため23年度内入金者予定 3年次編入学生 賛助会員
利息	1,000円	
合計	7,444,011円	

支出の部

費目	金額	摘要
事業費	4,280,000円	保護者への案内・通信 15万円 学習・実験等設備充実 300万円 学生支援図書カード 10万円 新入生保護者懇談会 18万円 海外語学研修等助成 60万円 後援会目的達成経費(予備費) 25万円
事務費	460,000円	事務用消耗品類 5万円 会報他印刷類 38万円 振込手数料 3万円
会議費	90,000円	総会(弁当、お茶)
人件費	250,000円	事務員手当
小計	5,080,000円	
繰越金	2,364,011円	
合計	7,444,011円	

平成23年度 理学部後援会予算収支中間報告

(2011.4.1～2012.1.31)

収入の部

費目	金額	摘要
繰越金	3,603,011円	前年度から
会費	2,200,000円	23年度入学生 他
利息	303円	
合計	5,803,314円	

支出の部

費目	金額	摘要
事業費	3,538,269円	1. 保護者への連絡・広報 29.5万円 2. 実習・実験等設備充実 300万円 3. 新入生保護者懇談会 14.1万円 4. 学生支援謝礼 0.2万円 5. モンゴル科技大との交流 2.1万円 6. 特別講演会への助成 7.9万円
事務費	22,038円	振込手数料、文具 他
会議費	69,550円	総会費用
人件費	163,400円	後援会事務補佐員
合計	3,793,257円	

◆理学部後援会への入会について(お願い)

理学部後援会は、平成16年12月に「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、これまで多くの支援を行ってきました。

保護者各位におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解いただき、ぜひともご入会くださいますようお願いいたします。

会費/学部学生：20,000円、編入学生：10,000円

いずれも、入学時のみ。

平成23年度 理学部後援会役員

会長	赤間 芳則(3年生理事兼任)
副会長	笹木 明康(3年生理事兼任)
副会長	樋口 弘行(化学科教授)
理事	清水 正明(理学部長)
理事	各学年8名、各学科教員6名
理事	松永 豊(賛助会員)
理事	高井 正三(賛助会員)
監事	吉田 和貴(正会員)
監事	岩坪 美兼(教員)

平成23年度3月新規学校卒業者の進学・求職・就職の状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	157	63	220
② ①のうち進学者数	72	16	88
③ 進学率【②/①(%)】	45.9	25.4	40.0
④ ①のうち求職者数	70	35	105
⑤ ④のうち就職内定者数	62	31	93
⑤のうち富山県内	27	10	37
⑤のうち富山県外	35	21	56
⑥ 内定率【⑤/④(%)】	88.6	88.6	88.6

平成24年2月末日現在

平成23年度理学部学生表彰

表彰の基準は「特に成績の優れた者」です。
理学部全体から1名の学長表彰者、各学科から3名の学部長表彰者が選ばれています。

数学科

辻 昌修
林田 和樹
山村 紋加

物理学科

上田 隼也
川島 麻由
米山 直弥

化学科

金田 美穂
前馬 純一
吉原 祥子

生物学科

●馬場 健太郎
中 陳 舞
佐々木 久美
丸岡 祐喜子

地球科学科

林 鮎子
古川 雄大
大江 興策

生物圏環境科学科

久保田 将裕
浦山 亜由美
吉田 秀徳

●は学長表彰者

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-445-6143 FAX 076-445-6142
HP <http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/>
e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp

編
集
後
記

学生時代の行事や講義・実習の体験を特に印象深い一齣としてご記憶の方も多いと想います。本号には学生の方々の行事の体験談や感銘を受けた授業の感想も掲載しました。行事を開催する際には事前の話し合い、準備、それに着実に遂行するための協力が必要ですが、その間の苦勞を共有することで培った信頼関係は生涯続くことがあります。理学部での行事・実習が、多くの学生の友情を育む場であって欲しいと思います。(理学部広報委員会委員長 岩坪 美兼)